能登の里海を守る：海育実践と地域活性化プロジェクト

細谷　夏実　教授
(社会情報学部　社会情報学科　環境情報学専攻)

1. はじめに

私たちのゼミでは、世界農業遺産にも認定されている能登半島の穴水町で里海里山の保全につながる活動、地元の子どもたちに海の大切さや楽しさを伝える海育（うみいく）の活動などを 2015 年度から継続して行ってきています。その活動がきっかけとなり、穴水町と本学は包括連携協定を締結しています。

2022 年度のプロジェクトでは、子どもたちが海の大切さを学ぶ活動を行うこと、また、能登の里海里山保全についての理解を広め、地域活性化の助けとなるような活動や情報発信を行うこと、を目指しました。

2. 活動内容

1)　能登での地域連携活動（2022 年 8 月）

2022 年度の夏休みには、2 年ぶりに現地での活動を行うことができました。今回は特に、石川県立穴水高校および金沢星稜大学のみなさんと共に、穴水町でボラ待ち櫓の再建作業に協力しました。ボラ待ち櫓とは、江戸時代から地元に伝わるボラの伝統漁に使われていた櫓です。現在は実際の漁は行われていませんが、観光用の櫓が町内に数カ所設置されており、そのうちの 1 つを再建する作業でした。



作業について説明を受けるゼミ生たち

ゼミ生たちは、地元で櫓の保存に関わっている方から櫓の組み立てについて説明を受け、櫓の基礎を固定する砂袋を作ったり、櫓の材料となる木材を設営場所まで運んだりする作業を行いました。再建の取り組みは地元のケーブルテレビや新聞でも紹介されました。



木材を設営場所まで運ぶ



陸上で櫓の組み立て作業を確認する

2)　「能登展」での能登の紹介と物産販売（2022 年 10 月）

ゼミでは毎年、大学祭で「能登展」を出展しています。2022 年度は大学祭も 2 年ぶりに対面で開催され、1）で述べたような地域での活動や能登の魅力をポスターで紹介すると共に、穴水町に自生する椿を活かしゼミ生が地元の方たちと協働で商品化に関わった椿茶など、能登の物産販売も行いました。当日は町役場や教育委員会の方も来校して協力してくださり、ゼミ生は町の法被を着て説明や販売に活躍しました。



穴水町の方たちとゼミ生が協力し準備完了



当日ゼミ生は法被を着てがんばりました
（左手前が商品化に関わった椿茶）

3)　穴水町立向洋小学校の子どもたちとの取り組み（2023 年 2 月～3 月）

穴水町には 2 つの町立小学校があります。そのうちの一つ、中居湾に面する向洋小学校の子どもたちと、2018 年度から毎年協働で「うみいくカード」の作成を行っています。

向洋小では 3 年生のふるさと教育として、小学校の目の前に広がる中居湾で行われている牡蠣の養殖現場の見学を行っています。その見学で学んだことを子どもたちそれぞれが絵と文章で表現し、それを活かして編集し、ポストカードにするという取り組みです。

今回は、これまで 5 年間に作成したカードをゼミ生たちがパネルに収め、町の教育委員会の協力を得て、穴水駅前にある穴水町さわやか交流館プルートで約 1 ヶ月展示紹介しました。展示についての感想を来場者の方たちからアンケートで集めたところ、子どもたちの表現力や詳しい学びに感心した、もっと広めてほしい、といった感想をいただくことができました。



5 年分のカード展示の様子

今後も、地域の方たち、ゼミの学生たちなどと力を合わせて、里海保全や地域の活性化、子どもたちへの海育など、いろいろな取り組みを行っていきたいと考えています。